

HPVワクチン薬害訴訟 原告の声

提訴から3年を経た今の思い

2019/07/19

HPVワクチン薬害訴訟全国弁護団編

<https://www.hpv-yakugai.net/>

2019/07/19 初 版

2019/08/16 追補版

東京訴訟原告の声

東京1番 酒井七海 (HPV ワクチン薬害訴訟全国原告団代表)

16歳でHPVワクチンを接種してから9年目の今年、25歳になります。思春期の女子高生と呼ばれた私は、気がつけば20代半ばの女性になりました。接種を決めた当時、健康でいたいと願った年齢です。しかし、入院を繰り返しながら効果のある治療を模索し、寝返りや着替えの練習に励み、誰かの手を借りてなんとか日々を繋いでいるのが、今の私の日常です。

副反応について、適切な情報提供ができるまでの間は、積極的な接種勧奨を一時的に差し控えるべきとの厚労省の見解が示されてからも、国や製薬企業は、私たちと向き合う事なく6年が経ちました。私たちは今も、被害に苦しみ、治療法を切望し、生きていくための支援を求めています。

また、私たちは、子宮頸がんを予防する事を阻止しているのではありません。安全で安心な方法で、より若い世代の将来の健康が守られることを願うからこそ、自分の現状を訴える活動をしています。

原告の数が増えていく事は、悲しい事です。けれども、それ以上に、新たな被害者が生み出されることはあってはならないことです。1日も早く、国と製薬企業が私たちの現状と向き合い、この問題の解決策を共に考える日がくるまで、一丸となって闘う決意を新たにしました。

東京4番

私は中学2年生のときにサーバリックスを3回接種しました。3回目の接種から1ヶ月後、中学3年生のときに膝の強い痛みが出ました。それから8年間、様々な症状に苦しんでいます。寝たきりになった時期もあり、高校も退学せざるを得ない状況になりました。それから高卒認定試験、通信制短期大学を経て、今は通信制大学です。

私は薬剤師になりたいという夢がありますが、その夢は遠ざかってしまいました。いつか元気になったら必ず薬剤師になりたいです。いつになったら元気になり、その夢が叶えられるのでしょうか？

私は、子宮頸がんを予防したいと思い、ワクチンを接種しました。そして、接種後に副反応が現れました。私が経験した事実を伝えているのに、なぜ副反応と認められずに傷つけられなければならないのでしょうか？積極的勧奨を再開するということは、私のような思いをする人が増えるということです。問題解決もされず、一部の大人の勝手に多くの人を傷つけるなんてことはあってはいけないと思います。

東京5番

最近、再びHPVワクチンの積極的接種勧奨に向けた記事やニュースを目にするようになりました。彼らの主張はどれもワクチンの有効性を謳うもので、同時に、副反応を訴える人間に対しては世間の不安を煽って救える多くの命を危険に晒していると非難しています。副反応はあると訴える私たちとはまさに対極の考えで、だからこそ裁判にまでなっているのだと思います。

一体、ここでの悪者は誰なのでしょう。ワクチンを作った製薬会社でしょうか。それを勧めた国でしょうか。それとも、副反応はあると主張する私たちでしょうか。そもそもこの問題に悪者はいるのでしょうか。私はがんで苦しむ人を救いたいという気持ちも、ワクチンの副反応で苦しむ人の気持ちもよくわかります。

そして全てが明らかになるのは裁判の中だけです。その裁判が終わってもいないのに、一方的にワクチンの積極的勧奨を進める活動に私たちは反対します。

私たちはただ、自分の体に起きた異変を知りたいだけです。かつて確かにあった自分たちの健康な体を取り戻したいだけです。その願いが届くことをただただ祈っています。

東京6番 伊藤 維

私は中学3年と高校1年生で3回接種し、接種後に足や腕の痛みがあったもののワクチンの副反応とはわかりませんでした。1年半後には歩けなくなり車椅子になりました。高校生、大学生は24時間激痛でベッドで耐えるしかない日々が続く、専攻しているヴァイオリンの練習も思うようにできませんでした。そんな中でもヴァイオリンは続けてきました。学校も全面的にサポートしてくれ、毎日1時間半かかって母が車で送迎してくれました。痛みとの戦い、練習できない悔しさ、お友達と一緒に通学したり、遊ぶことも出来ない辛い毎日。何度も何度も生きていることすら苦しくて、このまま一生を過ごさなくてはならないのかという先の見えない不安な生活を送っていました。

でも、私にだってできることがあるのではないかなと思うようになり、ヴァイオリンを始める時に決めた、「音楽で元気になってもらう活動」をしていこうと再度思うようになりました。

国や製薬会社には、ワクチンを作った責任があります。「副作用がある」と表明しているのですから、副作用を直していくための研究をしていくべきです。心ある医師の方々へ、研究するための助成をするべきだと思います。

失った時間は戻ってきませんが、これから長い人生を送っていく私たちが、少しでも希望が持てるようにして欲しいと心から願っています。

ご支援くださる弁護団の皆様、支援者の方々に心から感謝しています。

そのためにも頑張っ生きていきたいと思っています。

東京7番 金澤佑華

私は中学3年の秋からサーバリックスを3回接種しました。その後頭痛や夜尿症、ぐるぐる回る様な目眩、痙攣、不随運動など沢山の症状が出ました。看護師を目指して入学した高校も退学する事になって大きく人生が変わりました。

接種してから7年が経ちましたが未だに突然倒れたり痙攣が始まったりとまだまだ普通の生活が送れずにいます。新しい夢を見つけこんな身体でも諦めず過ごしていますが、子宮頸がんワクチンを受けなかったらと考えるととても悔やまれます。

でも私は、負けずに前を向き、頑張っ生きています。

東京8番 佐藤奈津美

私は、定期接種となった高校1年生の5月にHPVワクチンを1回だけ接種しました。翌月の6月に国は勧奨中止しました。

1回目を接種した15分後に体調異変を起こし、副反応を発症し今年で7年目に入りました。

現在21歳です。私の症状は、体の不自由になってしまったことに加えて高次脳機能障害にもなり、普通に当たり前できていたことが沢山できなくなりわからなくなりました。特に記憶障害になるとは思っていませんでした。接種する前は、絶対に記憶がおかしくなったことはないと聞いています。約7年間、私は母親という人と一緒にいても母だと認識することができなくなりました。こんなことおかしすぎます。

成人となっても仕事は普通にはできません。満身に働くことはできないので給料もまともには得られません。疲労感や倦怠感も襲ってくるので一日がとても大変で必死です。

すでに接種したこと、副反応を発症したこと、失った時間は戻ってはいませんが、一日も早く私達被害者を治すこと、社会的補償を構築することが早急にすべき問題だと思います。

これらを置き去りにし、勧奨を再開すべきという意見には現時点では反対です。

東京9番 平原沙奈

私は7年前にHPVワクチンを接種して、今年で22歳になります。接種する前までは、酷い風邪をひいた時に学校を休む程度で、健康でした。3回目のワクチンを接種してからしばらくして、全身の痛み、不随意運動、酷い倦怠感、全身の痒みなどが次々と私を襲い、勉強どころか、友達と遊ぶことも出来なくなりました。7年経っても何の治療法もないのに、勧奨を再開するべきだとの声を聞くと、私達のこの訴えは無視されていくのかと悲しくなります。確かにワクチンを接種しても何の副作用も出ない人はいるかもしれませんが、実際に私達のように、とても酷い副作用が出る人がいることも事実です。私は、友人にロシアンルーレットのようなこのワクチンを勧めることは決して出来ません。

どうか現実から目を背けず、正しく考えてください。

東京11番母

当時娘は13歳でした。市から来たワクチン接種の書類は、小さい時から何度もきたワクチンと同様、なんら疑う事もなく、1年以内に3回接種ということで、自分の仕事、娘も学校、部活の合間をぬって慌てて3回接種させました。その直後からの日々は本当に地獄のようで、ここ数年は思い出さなく、あえて親子で触れないようになってしまっています。

今年20歳、成人式を迎えます。中学はほぼ行けないまま卒業、通信制(登校制)高校も頭痛めまいとの戦い、何度も迎えに行きました。救急搬送も幾度かありました。夢も希望もなく過ごしてきて、やっと美容師を目指したいと昨年入った美容学校では、実習で立ってられず、何度もたおれ、登校中の駅でも倒れ、先生に迎えに来てもらうこともあり、ついには全日制をあきらめ、今は通信制で勉強しています。

まわりにはワクチン接種後同様または多様な症状を訴えているお友達も耳にします。しかしそれを子宮けいがんワクチン、その副反応ではと関連づけられていないのではと思う方が殆どです。潜在的にどれほどの罪のない女の子達が知らないまま、気づかないまま、訳のわからないまま苦しんでいるのでしょう。

病気を予防する？何年後？かかるかどうかもわからず、ましてやその効果をいつどうやって娘たちは実感できるのですか？ワクチンといえども、身体に意図的に異物を入れることには変わりありません。それをなんの疑いも知識もなく自動的に接種させてきた親である自分を責め続けてこの7年です。

7年たった今、何種類も頭痛薬を常備しておいても、知らぬ間になくなっています。あまり効かなくても飲まないよりましなのでしょう。親には言わず、飲み続けています。痛みも苦しみも代わってやれない、治療法もない、鎮痛剤も効かない、娘の身体に何が起きているのかもわからない。今後いつまでどこまで不安を抱えて生きていかねばならないのでしょうか。

積極勧奨中止を続けているところこそが、重篤な副反応があることを国、製薬会社が認めている証拠ではないでしょうか。

東京15番

私は12歳中学1年生の時にHPVワクチンを接種し、体が不自由になりました。たくさんの方に「私の体を元に戻してください。助けて下さい。」とお願いした中学校生活でした。6年が経過し私は18歳になりました。大人に近づきましたが、私の体は不自由なままです。

私はこの春、通信制高校を卒業しました。今は障害者支援を受けて作業所で週に1回午前中の3時間働いています。週一の3時間の軽作業すら私にはとても大変な仕事です。

HPVワクチンを接種するまでは体力自慢だった健康な体を取り戻す為に、私は原告になりました。

私達HPVワクチン副反応被害者がどんな風に毎日を過ごしているのかも知らない人が多い中で、推奨再開はあり得ないと思います。何の問題解決策もなく、私達被害者を社会のスミに追いやってHPVワクチンを推奨する事は、おかしい話です。

私達が若い間にこのHPVワクチン副反応問題の解決を願って、私達の声が世間に届くと信じて今後も原告活動を頑張っていこうと思っています。

東京16番母

娘は、小学校中学校と無遅刻無欠席で、娘ただ1人だったので中学の卒業式、校長先生が凄い事ですとお話してくれたのを今でも覚えています。そんな娘が高校生になり、高校の体育館で痙攣発作で倒れ、初めて学校を休みました。

それから大学に上がり大痙攣発作を起こし、原因が分からず何故！？

無遅刻無欠席だった娘が、何故！

1度も倒れた事などない娘が何故？

何が起きたんだと毎日悩み不安な日々送っていました。

そんなある日、学校休んだ事も無かった娘が突然こんな事になるなんておかしい、と一緒に考えてくれて居た姉から連絡があり、ニュースで見えて思ったけど、娘が初めて倒れた高校の時ってワクチン打った後だったよね？と言われすぐに母子手帳をみて確認し、ワクチンを接種した数日後だった！ワクチンのせいだと確信しました！

今もいつ大痙攣発作が起こるのではないかと不安と、猛烈に襲ってくる腕の痛みで悩まされる日々を送っています。

東京21番

私は、中学2年生から中学3年生にかけてサーバリックスを3回接種しました。そして、意識消失、痙攣発作、体温調節機能の障害、酷い頭痛や体の痛みなど多くの副反応による症状のため、小学生の頃から続けていたソフトボールが出来なくなっていました。

現在、21才。夢だった職業につくことはできていますが、接種から7年経ってもまだ治らない副反応のため、仕事に制限を受けている状態です。

副反応に対する理解のなさから生じる周りからの誤解、諦めなくてはいけない多くのこと、完治することのない体調…自分の努力ではどうにもならない悲しさや悔しさ、苦しさを数多く経験しました。もうこれ以上、誰にも私のような経験をして欲しくありません。

私達を放置したまま、HPVワクチン勧奨の再開は絶対ありえません。私は自分に起こった真実を伝えることで、原告としての活動をできる限り行っていくつもりです。1日でも早く国や製薬会社が私達に歩み寄ってくれることを切望します。

東京25番母

現在20歳の娘は、小学校6年生の11歳～12歳で3回サーバリックスを接種しました。その後、中学校入学直後から頭痛や足の関節痛が始まり、中1、中2の間を通して続き、中3では酷い症状のため、学校を欠席する事も増えました。高校でも、2年生までは欠席、遅刻、登校しても保健室で休む等で、思うように通えず、3年生になると同時に通信制に転入せざるを得ませんでした。高校卒業後は、アルバイトをしながら通院しました。現在は、親戚のところでお世話になって働き、体調の悪いときには休ませてもらうなど特別に配慮をしてもらって、何とか働いています。仕事から帰宅すると、疲労ですぐ寝てしまう事が多く、普通の20歳の女の子の様な生活をさせてあげたいと願っています。

積極勸奨の再開なんてもってのほか！

東京26番母

本人は考えて表現するのが苦痛のようなので、親の思いです。

2011年の東日本大震災の後、娘は高校2年生の間に3回、子宮頸がんワクチンを接種しました。中学からずっと皆勤賞で、幼稚園の頃からクラシックバレエを頑張っていた娘は、健康そのものでした。しかし、高校3年の秋に、初めて倒れて救急搬送され、他にも立ちくらみ、頭がモヤモヤして覚えられない、耐えられない眼痛、長時間睡眠、倦怠感、腹痛などに苦しめられました。

なんとか看護学校へ入学したものの、覚えられない、忘れてしまう、失くしてしまう、物事を頭で考えて表現できない…と、3年生の夏に留年となり、体調も悪化したため長期欠席、そして休学しました。

何度も倒れて、繰り返し倒れるようになり、その様子も「娘を失うのではないか」と恐怖を感じるほどで、あまりに頻繁に救急搬送、入院となるので、入院中以外は、外出着で就寝していました。

多様な症状で、何科にかかればいいのか迷う中、あちこち調べて病院をまわり、やっと3年前に、副反応とわかりました。そして治療を受けて、徐々に落ち着いてきました。しかし、間隔はあいても倒れます、倦怠感があります、記憶や思考力の低下、痛み等で、学校も退学して、現在は自宅にて静養しています。

国が勧めていたワクチンを信じて打たせました。体調の悪化があった場合、医療機関は「副反応はありえない」の一点張りです。万が一被害にあったら予防接種の救済機関がある、確かにありますが、ほとんどの人は救済されません。

行政、医療機関、自治体、学校…どこへ行っても助けてくれません。自分たちで、必死に調べて探して、娘を救うしかありませんでした。

そんな状況になる可能性もあるんです。0%なら言いません。そうなった場合のことも考えて、大事な家族が接種するワクチン等の、リスク・効果を、しっかり調べて、判断するように、地域の中で、交流会などを通じてお話しています。

接種して8年がたち、高校2年生だった娘は、今冬に25歳になります。輝いていた頃の娘を封印して、今は、現実を受け入れて前に進もうと思っています。

親は、子より先に死にます。娘達が、不安なく将来に希望をもち生きられるように、支援救済を望みます。

原因の究明・研究なども進めて、治療法などの確立に生かしてほしいです。

「まちがえました」ではすまない、勧奨再開するならば、まず現状を把握していただきたい。

東京27番 望月瑠菜

積極勧奨が中止されてからの6年の間、新たな被害者が1人も出ていないことは確かでも喜ばしいことなのですが、私達被害者がこの6年間ずっと被害に苦しみ続けていることも確かなのです。

ワクチンの勧奨を再開すべきという無責任な意見もあるようですが、今一度私たちの苦しみを見て、その考えを改めて欲しいです。

未来ある子供から大切時間を奪うことは許されません。

一日でも早く薬害のない日本と世界が来る日を願っています。

そして一日でも早くワクチン被害の治療法が見つかり、私達が健康に過ごせる日が来ることを願っています。

東京28番

私は中学に入学する前に子宮頸がんワクチンの予防接種をしました。それは市からの通知が来てガンになることを防げるとのことで接種しました。

サーバリックスをたった一度接種しただけで、痛みをはじめ様々な症状が私を襲ってきました。関節の痛みから始まり頭痛、腹痛、下痢、そして更に頭痛は今まで味わったことないハンマーで頭を何度も何度も殴られてるようなとても痛い痛み、そしてその痛みと同時に手足の痺れに震え、嘔吐、それらの症状は一晩中続きました。次の朝病院に行ったけれど、ただの胃腸炎ですと言われました。お母さんはただの胃腸炎でこれらの他の症状が出ることはないはずだ、子宮頸がんワクチンの予防接種をしてからだと言っても、そんなことはないですと。

しかしそう言いながらもその病院では私の症状を知って直ぐに、子宮頸がんワクチンの予防接種の取り扱いをやめました。少なからずともその先生の中で副反応だと思ふことがあったからではないでしょうか？

それからは身体全体の痛みが生じるようになり、とにかく倦怠感も頭痛も酷く、朝は起きられない、手足に力がはいらない、鼻血、口内炎、皮膚疾患、めまい、貧血、視力低下、呼吸困難、と次から次へと色々な症状に苦しみました。

それと同じ位、お母さんは自分を責めていました。毎日私にごめんね、ごめんねと謝ってきました。私はお母さんは悪くないから、お母さんはあたしが将来ガンにならないようにってこの注射を打ってくれたんだから、私のことを思い打ってくれたんだから、何にも悪くないよって言いますが、それでもごめんね、ごめんねって謝ってきて、毎日二人で泣きました。

学校へ行くのもやっとの思い、学校へ行っても授業が受けられない位の倦怠感や痛み眠さでいつも保健室でした。教室に居れても机に伏せてるのが精一杯、そんな学生生活でした。私もみんなも一番楽しい時期をこんな形ですごしてきました。ただ毎日時間だけが過ぎていく、その中で味わえることは苦痛としか思えない時間だけでした。

製薬会社の人、医師の方たちはそんなにすごいワクチンなら、どうして真っ先に自分の娘、奥さん、大切な人を守る為に打たなかったのですか？ それがこのワクチンの正体なんじゃないですか？ それがわかってるから… 自分の家族や大切な人には打たせてないんじゃないんですか？

大人が作り出した物でこんな被害が出てることに、どうして背を向けるのですか？ 大人が子供に教えることの中で、いけないことしたらちゃんと謝る、そしてその間違いを正すことを教えていく、子供にはそう言うのに何故、製薬会社や医師は間違いを認め謝ることができないのですか？

ちゃんと私達に向き合ってください。ちゃんと間違いを認め謝ってください。時間を返してください。

東京30番

私は中学2年生の秋頃から3回に渡りHPVワクチンを接種しました。部活も満足に出来ず行きたい高校を受験することすら難しく諦め、将来に光など見えない中学生活でした。

現在私は20歳です。6年間経った今でも頭痛、吐き気、痙攣などの症状は変わらず出続けています。季節の変わり目などは症状が悪化しやすく友達と遊ぶ予定を立てても断らなくてはならなくなることもあります。やりたいように出来ない自分に苛立ち、周りと比べ死にたくなるときが定期的にあります。

今でももしあのときHPVワクチンを接種していなければ、副作用にならなければ、きっと行きたい高校に行き、大学に行き、遅刻欠席無く行ってやりたいことを存分に出来ていたのではないかと考えることもあります。

今後HPVワクチンを推進してしまうと、私のように未来に希望をなくしてしまう人がたくさん出てくることになると思います。私はそれを阻止したいです。同じ人生を辿ってほしくないです。

被害者がこれから増えないように、原告としてできる限りの活動をしていきたいと思っています。

東京32番母コメント

娘が子宮頸がんワクチンを打ったのは中2の時でした。3～4年間は原因不明の症状が体のあちこちに広がっていき、悪化する一方で、通院に生活の多くの時間がとられ、公立高校も中退させられ、友達との関係も希薄になっていきました。

通信制高校に通い始めたころ、娘の症状が子宮頸がんワクチンの副反応とびったり合致することを知り、病院をいくつか紹介して頂きました。

入院、通院を繰り返し少しずつ症状は改善されてはきましたが、今でも時々気を失いそうになったり、駅のホームでうずくまってしまうこともあります。薬も常用し、体力、気力が無い。社会に出て本当に働けるのか、自信が無いといつも不安を口にしています。

それでも被告のMSDが法廷で、原告らの主張は、日本だけでなく、世界に対して害をなすと主張しています。酷すぎます。

ワクチンを打つ前に副作用の可能性をきちんと伝えてもらっていたら。そして打った後も、もっと早く、被害の報告があることを我々に知らせてくれていれば、本人や親の苦痛が少なくなったに違いありません。

原告の一人は、人間がこんな苦しみをあじあわないといけないのか、自分は子供を産みたくないと言っていました。国がもっと、弱い立場の国民の側に寄り添う姿勢があつて初めて、誰もが安心して子供を産み育てられる環境が作られていくのではないのでしょうか。

原因の究明、治療法、解決策が示されないまま、ワクチンの積極的な推奨がなされることは、絶対にあつてはならないことだと思います。

東京33番 山田梨奈

私は中学1年の時に HPVワクチンを打ち、翌年に急に歩けなくなりました。演劇部に入り、演技の楽しさを知って女優という夢が芽生えた頃でした。

現在私は20歳になりました。6年間経った今でも私の症状は無くなりません。現在私は週に2回程度の短時間のアルバイトをしています。この体では女優の夢を叶えるのは難しそうです。

この6年間、体の痛みや、学校に行けない苦しみ、周りの人の心無い言葉で苦しんできました。それでもまだ私の症状は認めてもらえないのでしょうか？ 私たちのせいで救える命も救えないといいますが私たちの人生はどうでもいいのでしょうか？

私は私のために、そして今後私たちと同じ被害者が新しく出ないためにも原告として活動を頑張っていきたいです。

東京34番母

あるはずであった未来が、叶わないまま過去になり、もう二度と戻らないかもしれないと毎日考えること。それが日に日に辛くなっていきます。時間がたてばたつほど、本当なら叶えていた夢、かなわなかったとしても努力した結果が何かに変わったこと、そんな愚痴さえも言えないまま日々が過ぎていきます。

お祭りや花火、プールや夏休み。クリスマスやハロウィンのばか騒ぎ。お友達と過ごし、恋をして楽しくて仕方のなかった数年間のきらきらしている時代。全てがベッドの中で終わってしまいました。

高校生になって、悩みながらも楽しく学校生活とバレエをがんばっていた日々が、原因不明の痛みで毎日泣いて過ごすようになったのは、丁度7年前です。

何が起こったのか全くわからないまま、いきなり体が動かなくなり、病院に行っても何も異常がない状態。誰に相談しても心の病にされてしまい、親でさえどういことがおきているかわからず、誰にも理解されないまま痛みを我慢する日々。話したくても口が開かず、伝えたくても手が震えて文字が書けず、泣きたくても目が開かない。大好きなバレエも踊れない。そんなことが本当におけると信じられるでしょうか…。普通の生活を送ってきた私達家族には本当に訳がわかりませんでした。

ワクチンの副作用かもしれないとわかった時には、やっとこれで治療と改善が近づいたと本当に嬉しかったのですが、結果待っていたのは全く逆の世界でした。

そんなことはありえないから、嘘をついていると言われ続ける日々でした。呼吸困難になって救急車を呼んでも「子宮頸がんワクチン」と一言言ったが為に、病院は4つも受け入れ拒否。治療方法がないことだけでも辛いのに、それを嘘だと言われるということは、その何十倍も辛いことです。一般的に病気の人には優しくして貰うことが出来るのに、私たちは辛い上に更に酷い言葉を浴びせられます。

裁判を通して、私達が叶えてほしいことはおそらく皆共通してただひとつです。

きらきらしていた未来を、一刻も早く、少しでも近くに取り戻してやりたい。そのために、原因を特定し治療方法を確立してほしい。

お金なんか要りません。ましてや、がん患者を増やそうなんて心にも思っていません。

ただ、あるべきだった未来を、何故か急に消えてしまった日常を、間に合ううちに取り戻したいだけです。

親である私はどうしても同世代の楽しそうな女の子を正視できません。どうして、自分の子供がここにいないのだろうと、気がつくと電車で泣いている事もしばしばあります。

どうか、正しい情報をきちんと伝えてください。

これ以上、こんな地獄を子供達に与えないでください。

東京35番

子宮頸がんワクチンを接種した中学1年生の13歳の時から8年間、入れ替わり立ち替わり現れる様々な症状にずっと苦しんできました。あの時ワクチンを接種していなければ、しなくてよかった苦労や辛さを味わい、8年経った今も副反応に苦しんでいます。それは、決して私だけの問題ではなく、周囲にも心配と迷惑をかけ、己の問題に巻き込んでしまったことも辛いです。

ワクチンを接種して、副反応を受けたその後も、副反応に関する報道が減った後も、私たちの苦しみと戦いはずっと続いています。ただ、接種して副反応を受けて終わりではないこと。それを知って頂きたいです。

研究や救済が進んでおらず、明確な治療法もない現状では、いつ治るのかも分からないままです。この身体と症状を抱えたまま21歳になり、就労の問題も見えてきている今、将来に対して強い不安を感じています。

HPVワクチンを接種するか、国として接種を推奨するか、このワクチンについて検討する前に、まずワクチンの副反応を受けた私たちの現状を知ってほしいと思います。

これから先、子宮頸がんを始めとした様々な病気を安心安全に予防していくためにも、国や製薬会社には、ワクチンを打って副反応を受けた被害者に対して、きちんと向き合っていて欲しいと強く思います。

東京45番

子宮頸がんワクチンを接種して8年が経ちました。全身の激しい痛みや力の入らない体を抱えベッドの上で過ごした高校時代は過ぎ、周りより2年遅れ大学生になりました。

長年この体で過ごすうちに自分の中で当たり前が変わりました。体は痛いのが当たり前、動いたらすぐ寝込むのは当たり前、頭が動かず記憶ができないのが当たり前…。しかし大学に行って自分は異常なのだと気付きました。

学校では相変わらず「医薬品で困ったことが起これば国や機関が守ってくれます！」と教育を受けます。この前教授が「副作用なんてないのにHPVワクチンの接種を止めている厚生労働省はけしからん」と講義されていました。

それでは一体私たちは何なのでしょう。目の前に現実として起こっているこれは何と説明されるのでしょうか。

真実を解明してください。手を差し伸べてください。解決策を考えてください。助けてください。もう何年言ったでしょうか。あと何年言わなければならないのでしょうか。

少しでも早く私たちの声が届き報われますよう、これからも原告活動を行っていきます。

東京46番母

接種から7年経ちました。接種後の2、3年は体調不良の原因が分からず沢山の病院を回りました。思春期外来なども受診しました。何処に行っても、原因ははっきりせず、ワクチンの副反応と出た時に腑に落ちました。

正社員で働く事はまだ難しく、市のサポートセンターなどを利用しながら少しずつアルバイトが出来る様になって来ましたが、未だに頭痛、疼痛、生理痛など、握力低下もあります。

早く原因究明して頂きたいです。

東京48番

接種して8年、現在22歳になり、年ごとに症状の変化や体力の低下に悩まされ普通に働くことに問題を感じています。

学生時代の激しい症状ゆえに、勉強や通学に支障をきたし、かかれる病院もないまま耐えていた時から、進路問題、就職問題といっそう厳しい現実と直面しました。週数回のアルバイトをしても、痛みなど様々な症状ゆえに続けることは困難でした。学校を卒業したばかりで仕事を見出せないまま過ごす日々は、体の辛さばかりでなく将来の不安に押し潰されそうでした。ようやく見つけた仕事はホームワークで、生き活きと仕事や学校生活を送っている友人達とは大きく異なる選択をせざるを得ませんでした。

このようにHPVワクチン接種は私の人生を大きく揺り動かし、長い期間、身体の症状に苦しむだけでなく、全ての面で辛い影響を与えるものとなっています。同じように副反応に苦しむ女の子達も、それぞれたくさんの辛い症状や病気を抱え、普通に生活することさえ、そして仕事を見だし働くことさえままならない現実と直面しているのです。

皆さん、HPVワクチン副反応は、今でも私達を苦しめていることを知ってください。

そして、責任と救済を求め、ふさわしい治療が受けられるよう助けを求めて、裁判という形で立ち上がらざるを得なかった現実があるということを知ってください。

東京49番母

娘は今年通信高校を卒業しました。元気であれば県外の大学に進学したかったようですが、受験勉強もあまりできず車椅子では1人暮らしは無理と判断し今年受験勉強と身体を治すことに努めて来年受験することに決めました。このままでは、来年大学に進学しても家から通える大学に私が送り迎えをして通学することになると思います。本当に娘が行きたい大学ではないと思います。

いろいろな事を諦めてきました。人生が全て変わってしまいました。

原因の解明も治療法も確立されず、このまま泣き寝入りするわけにはいきません。

娘達が安心して過ごせるようにしてください。そのために裁判に参加しました。

東京51番母

娘は、16歳の春にワクチンの三回目を接種した後から、身体のだるさ、微熱、頭痛、記憶障害が出始めましたが、ワクチンの副反応とは思わず、勉強疲れたと思い、頑張っておりました。

ところが、18歳の春に、それまでの無理のせいか、全身の痛み、高熱、呼吸困難が起き、死にそうになりました。幸いとても良い神経内科医のおかげで死なずにすみましたが、全身の痛み、痺れ、だるさ、脱力感、発熱、呼吸困難、月経異常の症状があり、長く同じ姿勢で座っていることも出来ないため、学校へ通えなくなりました。

現在、娘は22歳です。月に4〜6回ほどアルバイトをすることがありますが、相変わらず体調は悪く、寝込んでいる日が多いです。毎日症状を緩和するため、沢山の薬を飲み続けているせいで胃腸の調子も悪く、吐き気がして食事満足に取れない日もあります。緩和のための薬は、全く効かないこともあり、その時には、ただ痛みに耐えているような状況です。

本人も見守る家族も本当に辛いです。

これほどひどい副反応が出ることを知らせずに接種を呼びかけた国に、一日も早い治療法の確立と、日々の生活の保障をしていただきたいです。

東京52番

接種してから7年経ちました。症状は依然続いていて、未だに完治の目処は立っていません。

私は車椅子で生活しているわけではなく、杖をついているわけでもありません。一見、普通の人に見えないと思います。しかし体の内部では多彩な症状があって、薬に頼らないとまともに生活も出来ません。特に酷いのは24時間続く目眩、視覚障害、精神症状、睡眠障害、言葉が出づらなどです。

薬のお陰で辛うじて生活は出来ていますが、普通の人よりも何倍も努力を強いられています。自立出来るようになりたいと、医療系の学校にも行きましたが、体がついていかず途中で断念。現在は一年制の専門学校に通っていますが、これも休みがちで卒業出来るかわかりません。

周りは普通に社会人になっている中、自分だけが就職できずに足踏みしています。ろくに働けず、年ばかり重ねている現状がとても辛いです。この先両親が亡くなり、この症状を抱えながら一人生きていけないといけないかと思うと、不安しかありません。いっそのこと死んだ方がましではと思う時もあります。

接種しなかったら、こんな想いをする事はなかったはずです。元の体に戻してほしいです。時間を返して下さい。

名古屋訴訟原告の声

名古屋1番

私は副反応被害者になって3回手術して、体内には慢性難治性疼痛を押さえるための機械(SCS)が入っています。10代の時、体にたくさん傷がつくと分かっていたながら、その手術を選択しました。それほどひどい症状です。心因性と言われてますが、もしそうなら機械を体内に埋め込むなんて、傷も残るし良い事ありません。痛い検査や色んな治療の為入院もたくさんしました。未だに長距離や長時間の移動時は車椅子、杖は欠かせません。症状がなくなる日はありません。

これから接種しようと思っている方々には私達被害者もいることを知ってほしいし、このワクチンを推進する側はきちんとリスクの説明をしてほしいです。

裁判もすでに3年が経ちましたが、未だに係争中です。闘病生活も7年が経ちました。1日も早く治療法を見つけて救済して欲しいです。

名古屋3番

ワクチンを接種してから8年が経過しましたが、毎日酷い痛みになされ、夜も眠れない状態が続いています。そのため、自分のペースでできるかもと思ったものでさえ、やりきる事が難しいのが現状です。将来のビジョンを思い描くことすらできません。

HPV ワクチンによって、このような辛い思いをする被害者が出ないことを望みます。

名古屋4番

中学1年生の4月に HPV ワクチンを接種し、すぐに体調が悪くなり6年が経ちました。

初めは心因性とか言われ、嫌な思いや解ってもらえない辛さで自暴自棄になり、夢も希望も捨て、毎日寝ているだけでただ生きているだけでした。周りは元気で自由に動き回れ、夢や希望に溢れている子達ばかりで、なんで私だけと羨ましく思いました。

6年たっても体調は良くなり、薬を飲まないで動くこともままなりません。体調が悪いことをいちいち説明するのも疲れるし、説明して変な目で見られるのもいやなので、周りに体調が悪いことを知られないようにしています。バイトをしたくても、体力がないのでできるバイトはありません。

元気で普通に生活が出来る人には理解できないと思います。誰かを責める責めないではなく、ただ、苦しんでいる人が特別な配慮とか必要なくなるくらい健康になって、自分のやりたい事に挑戦できるようになればいいなと思います。

そのためには、ワクチンの副反応ではないと言うだけでなく、製薬会社と国と医療機関が協力してきちんと調べて、治療方法を確立してほしいと願います。

名古屋5番

どうして、毎日こんなに体中が痛いのだろう。

どうして、健康な体や普通の生活に戻れないのだろう。

いつまで続くのかと不安ばかり。

でもこの辛さを理解して支援してくれる人達があります。本当に感謝しています。

必ず、全ての人達にわかってもらえると信じています。

名古屋6番

早く元通りになりたい。

運転免許がとりたい。

みんなと同じものが食べたい。

痛みがなくなってほしい。

名古屋6番母

娘は14歳でワクチンを接種してから8年もの間ずっと苦しいままです。

当初は全身の痛みや歩行困難、失神、進学の事などで困っていたのが、痛みの症状が少し治まった途端に記憶をなくし、食事の仕方、服の着方、言葉、母のことも忘れてしまうなど、新たな症状に苦しめられてきました。

今では、歩けないことくらい車椅子があるから大丈夫と考えてしまうほど感覚がマヒしていることに、改めて気付きました。

いつになれば安心して普通の生活ができるのでしょうか。

名古屋7番

私は将来の夢のために、毎日希望を持って生きていました。しかし、このワクチンを打って突如、あたりまえの普通の生活をするのができなくなり、呆気なく人生は狂ってしまいました。

数えきれないくらい沢山のものを奪われました。

もっと沢山勉強したかった。

もっと沢山友達と青春したかった。

本来なら普通にできたはずのことでした。夢を叶えることはもちろん、叶えるための努力をすることもできなくなりました。何のために生きればいいのか、何で生きなきゃいけないのか、わからないくらい毎日が辛くて苦しいです。

失われた7年間はまだ戻りません。でも、治すことができるのなら、これからの人生、夢はまだ取り戻すことができます。今しかできないこと、今だからできることは沢山あります。

だからもう一度、夢に向かって頑張れるように、私たちを助けてください。

名古屋8番母

あんなワクチンを打たせてしまったこと、無念でなりません。

明朗活発だった娘は症状がでてから性格がすっかり内向的になり 家庭も暗くなっていきました。

歯を食いしばり高校を卒業、 努力の末大学生になったものの通えず退学。

負けず嫌いな娘は、それでも先を見据えて頑張っています。

早期の治療体制の確立、 将来の保障を切に望みます。

名古屋9番

出勤は当日朝にならないとわかりません。

体調悪い時は出勤できません。

体調悪くなったら横になります。

低気圧に弱いです。

記憶することができません。

音・光・匂いで倒れます。

電話が鳴るとパニックになります。

こんな私をあなたは雇ってくれますか？ 今 働きたくても働けない現状です。

誰か助けてください！

名古屋10番

働きたいです。

生きていくためにお金を稼ぎたいです。

名古屋10番母

娘が普通の日常生活を送れなくなってから7年たち21歳になりますが、まだ就職することができません。下の子達が先に就職し、娘は周りにどんどん置いていかれている状態です。

何の補償もなく、いつ完治するのかもわからず先の見えない毎日を過ごしています。

こんな辛い思いをする子達が増えないよう、製薬会社はきちんと責任をとり、接種再開などとならぬように真摯に対応して欲しいと思います。

名古屋 11 番本人

普通に友達と過ごすはずだった時間を返してほしい。

家族のことを思うと、裁判が長引くことに先の見えない不安があります

名古屋 11 番母

普通の生活が送れていたら、大学 2 年生。昨年、同じ年の方と新しく知り合いになった時に、娘は、「体調が悪くなって学校に行けなくなった。通信しか行けず、まだ通っている」と説明していました。

今年、高校を卒業しました。本当はすぐにも進学したかったはずですが、高校を卒業してすぐの新しい生活に不安があったため、この 1 年は、まずは普通の生活ができるかを試しています。友達には、「来年受験したいから、今年 1 年はお金をためている」という説明をしています。本当は、こんな説明をいちいちしたくないはずですが。

7月の期日では、3回くらい先の期日の日程を言われましたが、祖父の在宅での療養生活も重なり、私たち父母も年齢を経てゆき、この先娘を守ってあげられるか不安です。

体調が悪くなってから約 5 年半が経ちましたが、どれだけ月日が経っても、一番楽しいはずだった中学時代、友達と普通に送れた生活が送れなかったことは、忘れることができないと思います。

せめて裁判だけでもきちんと認めてもらい、早く終わりにしたいです。

現在、HPV ワクチンの接種率はどうなっているのでしょうか。市は無料接種券を発行していますが、私の周囲では接種をしたという話を聞くことがありません。

以前、日本脳炎ワクチンが副反応により中止になったことがありましたが、新しく改善されてからは接種されています。もし、HPV ワクチンによる副反応がないのであれば、接種している人が現在もいると思うのです。それが無いということは、年頃の娘を持つ親は、私の娘のような思いをさせたくない、副反応があるかもしれないと思っているのではないのでしょうか。

何年経ってもこの苦しみが消えることがないのです。1日でも早く、余計なことを考えずに普通の生活が送れることを願っています。

名古屋12番 落合晴香

私は15歳でワクチンを接種し、19歳のときに意識消失とともに、19年間の多くの思い出や記憶を失いました。現在は復学していますが、私は今年22歳になり、就職活動もありました。

私たちはワクチンを接種した日から着実に、学生から社会人へと、大人になっています。しかし現在も、進学や就職を諦めざるを得ない方が多くいます。私たちは二度と来ない青春を悔しさと怒りに奪われたのです。

私たちは1日でも早く治療法を確立し、元の体を、生活を返して欲しいだけなのです。私たちの症状や訴えを「思春期」という一言で片付けてしまう被告には強い憤りを感じます。

私たちの就学への対応もなかなか十分に行われていない状態で、就職すること、治療法の確立を待たなければいけないこと、その間も続いていく生活へと、不安は募る一方です。

私は治療法と就学や就職を含む生活への適切な救済の確立、新たな被害者を増やさない薬の開発・承認プロセスの確立を望み続けます。

名古屋14番

生活を送る上で身体的苦痛が大きく、体調も良くならないため入退院も繰り返していますが、元の生活には戻りません。

医療費もかかるのに、働いてお金が稼げない身体となると今後の生活が心配です。

裁判では被告の意見を聞いていても、耳を疑うような話ばかりです。

名古屋15番

子宮頸がんワクチンの副反応によって全身の痛み、手足が動きづらく、ゆっくりしか歩けないこと、外出すると身体が酷く痛むことなどに苦しんでいます。どんどん新しいつらい症状が出て、怖い、どうしたら治るのか分からないから不安です。

裁判で副反応だと認められることを通じて治療法が見つかることを願っています。

名古屋17番

いつも頭の中に浮かんでくるものは、「良く頑張ってる」と自分を説き伏せる声と、脚に重りをつけて海に静かに沈んでいく自分の姿。

いつでも自殺してしまってもいいと、心のどこかでいつも思うけれど、私の心に深い傷を刻んだ人々が私のことを理解しないままであることを、私は許すことができません。

身体も心も十分傷ついてきましたが、いつか身体が治ったとしても、心には傷跡がいつまでも残るものだと、いつかの純粋な自分には戻れないんだと、感じる日々です。

大阪訴訟原告の声

大阪2番

積極的勧奨を取り止めてから、同様の症状を訴える件数が減っている事実にもっと目を向けてほしい。副反応へのさらなる対策をしてから行うべき。

大阪4番

積極的推奨が再開されれば、癌が防げると思い副反応の事も知らずに接種する女の子が出ると思われます。また被害者が増える事になる事は避けて欲しいです。

先ずは、私達被害者の為に治療法を確立する事をしっかりと考えて研究機関を設置して欲しいです。

大阪8番

積極的推奨をする前に現在被害が出ている人達に対しての解決策を考えて欲しいです。まずは体調が悪くなった時に、すぐにかかれる医療機関をきちんと作ってほしいです。

今現在症状が出てもすぐに診てもらえる病院がなく、耐えるしかありません。治療法を本当に研究してほしいです!治してほしいです。

社会に出て元気に働きたいです!

大阪10番父

決着を早くつけてほしい。こうして時間がかかると、娘もその分、大事な時期が過ぎてどんどん大人になってしまう。

製薬会社は聞く耳もたずに『自分たちのせいじゃない』と主張しているが、それは別として、現にある病気としてとらえて、治す薬を作ってほしい。

国は、正しい情報を国民に伝え、早く治療法を確立してほしい。

大阪12番母

私の娘は今もまだ接種する前の元気な体には戻っていません。

周りの子たちは結婚、就職と前に進んでいるのに自分の娘はまだ立ち止まったまま・そんな風に思ってしまう。接種さえしていなければ、こんな事にはならなかったのにと何度も何度も思いました。こんな思いをしている人が他にもいます。

それなのに、それには見て見ぬ振りをしている。

なぜ、接種を推奨するのか。もっと現実に向き合って欲しいです。

大阪13番母

娘に、積極的勧奨再開に向けた動きもあるようだけど、どう思う？と尋ねました。

娘は、「はっ、好きにすればいいじゃん。やりたいならやればいいじゃん」と言って怒って、泣いて、パニックになりました。質問をしてから2時間たっても、ずっと泣いていました。「みんなもう嘘つきばかり嫌だ。」「嘘つきばかり、嘘つきしかいない。」と言って、過呼吸も起こしました。

「こんな状態になっている子がいるのに、わかっているのに、やりたい大人がいるなら好きにすればいい」と考えて泣いたそうです。

母としても、本当に怒りで言葉が出ません。

大阪14番母

積極的勧奨再開なんて、あり得ない被害者を増やすばかり。医師の肩書きだけで、被害者を診察した事がない人が再開を勧める事もあり得ません。積極的勧奨中止しても被害者となった子供は何にも変わらず、元の身体に戻っていません。

ワクチンは健康な人に接種するものなので、安全かつ有効性の高いワクチンを使用しないといけないのに、このワクチンは有効性も明確でないのに、副作用のリスクの方が高い危険なワクチンなのに、積極的勧奨再開するなんてあり得ない。

勧奨再開を訴える医師は被害者を診察していません。実際診察している医師は副作用の原因を追及し、全国に診察や治療のできる治療施設を作らない限り、再開はしてはいけないと言っています。厚労省が出している副作用が出たときの医療機関は全く機能していません。私の娘も遠く離れた病院まで飛行機で行き6年経過した今でも入退院を繰り返しています。

このワクチンを推奨している医師に聞きたい。このワクチン、他人ではなく、自分の娘さんや知り合いに自信持って勧められますか？

医師としてではなく、「人」として考えてください。

大阪15番母

再開して同じ症状が沢山出た時にはちゃんと責任はとれるのですか？

大阪16番・大阪16番母

いろいろ不安もあると思いますが一緒に頑張りましょう。

大阪18番 児玉望美 (HPV ワクチン薬害訴訟大阪原告団代表)

三次提訴で原告が増えますが、まだまだ被害の方がおり、裁判に参加できない状態の方もあると聞いています。

早く裁判が進んで、被害の救済、治療ができることを望みます。

よろしくお願いします。

大阪19番

HPV ワクチンを接種したことで体調が悪くなり、将来に不安を抱えながら生活を送っている方が私を含めたくさんいます。これ以上被害者が増え、将来の夢や希望を失ってほしくありません。積極的勧奨を進めようとしている方は今の被害者の現状を知っていますか？と聞きたいぐらいです。

積極的勧奨の前に、HPV ワクチンの被害者への対策(治療法)など進めていただきたいです。

大阪19番母

HPV ワクチンを接種して、今まで健康だった娘の身体の痛みや不調などが起こり、その対策を何もできていない状況で、娘は毎日痛みや苦痛に耐えて何年も日々過ごしています。

HPV ワクチンの積極的勧奨を再開するのは、被害者が増える一方でとても恐ろしい事です。まず今 HPV ワクチンを接種して被害を受けた子供たちの事を一番に考えていただきたいです。

大阪20番

まだ副反応が起こった原因がちゃんとわかっていない中で、ワクチン接種を再開させてほしくないです。副反応で苦しむ女の子達の思いをどうかわかって下さい。

大阪21番

一部では接種を再開するべきだという声があるが、私は副反応が出て約8年たった今も寄り添ってくれる医師のもとで治療を続けているも完治には至っておらず、まだまだ治療が確立しているとは言えない中での再開は、急ぎすぎだと思います。

大阪23番母

ワクチンの被害を受けてから今までの苦労とこれからまだまだ長い治療との戦い。

いつになれば娘が健康な身体に戻れるのか。

副反応に効く薬が早く開発されて娘や、被害に遭われた方々が少しでも楽になれば良いなと思います。

この先薬害の被害者が出ない為にも、国と薬品会社に自分達のしてきた事に責任を持って謝罪、これからの補償を認めてほしいです。

九州訴訟原告の声

九州1番 梅本美有

被害を無かった事にさせないためには、私達が声を上げるしかない。被告には責任の元に健康回復の研究を進めさせましょう！

九州1番母 梅本邦子

積極的接種勧奨が中止されてから、それまでのように被害は増えていません。これが何を物語っているのか分かるはずです。

九州5番母

ワクチン接種して8年経った今でも、いろんな症状に苦しんでいる娘達が沢山いる中、原因究明、治療方確立もされていません。この現状でワクチン積極勧奨再開はあってはならないことです。

未来ある子供たちの夢や希望を奪い取り、その上無責任な対応は許せません。

お願いします。被害にあっている娘達をちゃんと向き合ってください！

これ以上、苦しむ子供たちを増やさないでください。

九州6番母

私の娘は子宮頸がんワクチン接種後から明らかに体調を崩しています。

ワクチンの積極勧奨再開を求めている皆さん、1週間、いいえ1日でもいい、私の娘を預かってみてください。20歳で紙オムツをし、親の顔も認識出来ず、自分1人で移動する事が出来ない娘を24時間見てください。

痛みや発作で病院へ行っても為す術はありません。なぜなら、治療法が確立されていないからです。被害者家族はこんな生活を何年も強いられているのです。積極勧奨する前に、まずは被害者全員の回復に力を入れるべきではないでしょうか。

九州17番母

ガンには誰もなりたくはないでしょう。夫をガンで亡くしました。しかし、そう思ってたワクチンで、娘の心も体も、今までのようにはいきません。毎日の頭痛吐き気だるさ。皆と一緒に歩きたくても体が動いてくれない。治療して良くなったと思っても再発する日々。安易にうってしまってはだめ。こんなにもつらい思いを娘にさせるとは思いませんでした。まずは接種再開以前にしっかりと安全性を確認して欲しいです。

九州25番母

積極勧奨再開を求める方々に娘さんがいるのなら、接種を受けさせているのかきいてみたいものです。若い子だけが子宮頸がんになるわけでない。30・40代でもかかる病気です。奥様方々、受けていらっしゃいますか？

誰のため？わが子のため！それが、いつか未来ある子どもたちを救うためです。

ぜひ、たちあがりましょう！

九州30番

私達みたいな被害者をこれ以上増やさない為に、積極勧奨再開はやめてほしいです。

副反応が出た時に、国や市が責任を未だに責任を取れていないのに、これから被害が増えた時に責任を取れるのでしょうか。被害者に寄り添ってすべての事に対応してくれるのでしょうか？

そのような姿勢がない中での勧奨する事は無責任としか言えません。

九州30番母

一致団結して、元気を取り戻す事を信じて頑張りましょう。

提訴までの経緯

- 2006/6/8 HPVワクチンが世界で初めて承認される(米国ガーダシル)
- 2009/10/16 国がサーバリックス(グラクソ・スミスクライン社製)を承認
- 2010/12 子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業(積極的勧奨を伴う公費助成)開始
以後、接種者が急増
- 2011/7/1 国がガーダシル(MSD社製)を承認
- 2013/3/25 全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会発足
- 2013/4/1 予防接種法に基づく定期接種となる
- 2013/6/14 国が積極的勧奨を一時中止
- 2015/3/31 全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会が、国・製薬企業に全面解決要求書提出

提訴から現在まで

2016年(H28)

- 7/27 被害者63名が、国と製薬会社(GSK・MSD)を被告として全国4地裁(東京・名古屋・大阪・福岡)で一斉提訴
- 8/20 HPVワクチン薬害訴訟全国原告団設立総会開催(東京)
- 8/23 全国原告団が全国薬害被害者団体連絡協議会に加盟
- 9/28 九州訴訟第1回口頭弁論(福岡地裁)
- 11/8 大阪訴訟第1回口頭弁論(大阪地裁)
- 11/29 名古屋訴訟第1回口頭弁論(名古屋地裁)
- 12/14 第2次全国一斉提訴(4地裁合計57名)
- 12/26 「全国疫学調査」に対するコメント(速報版)を公表
- 12/30 「全国疫学調査」に対するコメント詳細版を公表

2017年(H29)

- 1/23 全国疫学調査に関する要望書を提出

- 2/13 東京訴訟第1回口頭弁論(東京地裁)
- 4/24 「全国疫学調査」追加分析結果に対するコメントを公表
- 5/18 名古屋訴訟第3次提訴(6名)**
- 12/21 「HPVワクチン接種後に生じた症状に関する新たなエビデンスの有無についての検討」
の見直しを求める意見書を提出
- 12/22 日本産科婦人科学会に要望書を提出、厚労省合同部会によるHPVワクチンのリー
フレット改訂案の重大な問題点について記者会見

2018年(H30)

- 1/19 HPVワクチン新リーフレットの全面修正を求める緊急要望書を提出
- 3/24 国際シンポジウム「世界のHPVワクチン被害は今」に参加
- 4/26 海外の被害者団体とともにHPVワクチンに関する共同宣言 2018を公表**
- 6/14 声明「HPVワクチンの積極的勧奨中止から5年を迎えて」を公表**
- 6/29 声明英語版公表:Five Years Since the Suspension of Proactive Recommendation of the Human
Papillomavirus (HPV) Vaccine in Japan
- 8/7 厚労省によるHPVワクチンの情報提供の評価手順の誤りについて意見書を公表
- 10/12 日本医師会及び日本医学会に対し、合同公開フォーラム「HPVワクチンについて考える」開催についての抗議声明を公表

2019年(H31)

- 5/22 東京訴訟第10回口頭弁論(東京地裁)
- 5/28 大阪訴訟第11回口頭弁論(大阪地裁)
- 7/4 名古屋訴訟第11回口頭弁論(名古屋地裁)
- 7/17 九州訴訟第12回口頭弁論(福岡地裁)
- 7/19 東京訴訟第3次提訴・大阪訴訟第3次提訴**

《HPV ワクチン薬害について、より詳しく知りたい方へ》

HPV ワクチン薬害訴訟全国弁護団 Q&A

<https://www.hpv-yakugai.net/q-a/>



《ひろがる支援の輪》

HPV ワクチン薬害訴訟を支える会・北海道



HPV ワクチン薬害大阪訴訟を支える会



HPV ワクチン東京訴訟支援ネットワーク

<http://hpv-yakugai-shien.net/>



HPV ワクチン薬害訴訟を支える会九州



HPV ワクチン名古屋訴訟支援ネットワーク

<https://www.facebook.com/hpv.nagoya>



HPV ワクチン薬害訴訟を支える会・沖縄

(連絡先)

yuuko.watanabe3@gmail.com

090-1216-8693